

お 知 ら せ

平成27年12月16日
国土交通省中部地方整備局
入札監視委員会第二部会事務局

中部地方整備局入札監視委員会第二部会が第3回定例会議を開催 — 審 議 概 要 公 表 —

中部地方整備局入札監視委員会第二部会の平成27年度第3回定例会議を12月2日、中部地方整備局にて開催しました。

第二部会第3回定例会議では、発注工事等の中から抽出した5件の事案に係る一般競争の参加資格の設定等について審議を行いました。

入札監視委員会は、「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」に基づき、地方整備局長の委嘱に基づき設置された学識経験者等で構成する第三者機関です。

当該委員会では、中立・公正な立場で客観的に入札及び契約手続きについて審議を行い、意見の具申又は勧告を行います。

以下、審議概要についてお知らせします。

1. 日時及び場所

日 時：平成27年12月2日（水）13時30分～15時30分

場 所：中部地方整備局（丸の内庁舎） 会議室

2. 審議概要

別紙のとおり

3. 配 布

中部地方整備局記者クラブ

専門誌記者会

名古屋港記者クラブ

港湾新聞

港湾空港タイムス

日本海事新聞

海事プレス

4. 問い合わせ先

中部地方整備局総務部

契約管理官 岡本 耕司

電話 052-209-6316(ダイヤルイン)

FAX 052-203-9738

別紙1

平成27年度 中部地方整備局 入札監視委員会第二部会

第3回定例会議 審議概要

開催日及び場所	平成27年12月2日(水) 中部地方整備局(丸の内庁舎)		
委員	[部会長] 横溝 大 (大学院教授) 伊藤 倫文 (弁護士) 中村 友昭 (大学院准教授)		
審議対象期間	平成27年7月1日～平成27年9月30日		
抽出案件数	総件数 5 件	審議案件は別紙1-2のとおり	
入札・契約方式	件数	工事名等	
工 事	一般競争入札 (政府調達適用)	1 件	
	一般競争入札 (政府調達適用外)	1 件	
	工事希望型競争入札	0 件	
	通常指名競争入札	0 件	
	随意契約	0 件	
建設コンサルタント業務等 一般競争入札	1 件		
建設コンサルタント業務等 公募型プロポーザル	1 件		
役務の提供等及び物品の製造等 一般競争入札	1 件		
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答	
	別紙1-3のとおり	別紙1-3のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	意見の具申又は勧告はなし。		

別紙1-2 抽出案件一覧表
【工事】

(一般競争入札方式 : 政府調達に関する協定適用対象工事)

期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
平成27年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区道路(霞4号幹線)橋梁(P13~P19)上部工事	港湾等鋼構造物工事	8	8	8月17日	日立造船・瀧上工業特定建設 工事共同企業体	2,845,800	90.1	

(一般競争入札方式 : 政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)

期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日

工事名	工事種別	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
平成27年度 名古屋港第1ポートアイランド補強工事	港湾土木工事	2	2	9月30日	宇佐美工業(株)	105,192	94.1	

【建設コンサルタント業務等】

(一般競争入札方式)

期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日

業務名	業種区分	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
平成27年度 下田港防波堤沈下測量	測量・調査	1	1	9月14日	(株)スルガコンサル	2,430	98.3	

(簡易公募型プロポーザル方式)

期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日

業務名	業種区分	手続への参加資格 及び業務実施上の 条件を満たす参加 表明書の提出者数	技術提案書 の提出者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
平成27年度 強震計を活用した施設診断システム運用 方策検討業務	建設コンサルタント等	1	1	7月13日	ニュージェック・沿岸技術研 究センター設計共同体	34,884	98.5	

【役務の提供等及び物品の製造等】

(一般競争入札方式)

期間 平成27年7月1日～平成27年9月30日

業務名	業務分類	競争参加資格を 確認した者の数	入札者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
平成27年度 中山水道航路保全標識AIS設備設置業務	役務の提供等	1	1	9月30日	(株)ゼニライトプイ	8,424	99.3	

別紙1-3 委員からの意見・質問、それに対する回答等

1.報告事項についての審議概要		
報告事項		
項目	意見・質問	回答
①工事の入札方式別発注一覧 ②建設コンサルタント業務等の入札方式別発注一覧 ③役務及び物品の入札方式別発注一覧 ④指名停止措置等の運用状況 ⑤談合情報等 ⑥再度入札における一位不動状況 ⑦工事種別ごとの低入札価格調査対象工事の発生状況	なし	

2. 抽出案件の審議概要		
会議の審議対象案件は、当番の委員が入札契約方式別に事務所毎の審議実績及び地域性、事業種別毎を考慮したうえで無作為抽出したものである。		
抽出案件	意見・質問	回答
1. 一般競争入札(政府調達適用)		
平成27年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区道路(霞4号幹線)橋梁(P13~P19)上部工事	技術評価点について、第1位の者(落札者)と第2位の者では、どこに差があったのか。	当局が求めた安全対策に関する技術提案の5項目について、落札者の提案は、すべての項目について効果があると判断されましたが、第2位の者については、うち一部の提案について、効果が限定的であると判断され評価を下げたことにより総得点に差が生じたものです。
	参加資格として求める施工実績を海上工事としているが、陸上工事にかかる要件は設定しないのか。	本案件は、6径間の橋梁を製作し、施工箇所により陸上と海上から架設するものですが、現場条件を考慮し、より難易度の高い海上架設に着目して施工実績を求めています。参加資格の確認にあたっては、申請された実績が海上工事であるということの確認をすることで、陸上工事も含めて総合的に施工可能であると判断しております。
	本件は適正に処理された。	

2. 一般競争入札(政府調達適用外)

平成27年度 名古屋港第1ポートアイランド補強工事	企業に求める捨石投入の施工実績を5,000㎡以上とした理由は何か。	本案件は、捨石投入を11,534㎡施工するものですが、競争性確保の観点から施工規模の1/2程度を要件として設定することとし、5,000㎡以上としました。
	想定応札者数21者に対して、参加業者が2者となったことについてどのように考えるか。	本案件では、技術者に求める実績の要件について、企業に求める施工実績の約1/2に設定しましたが、参加を見送った業者にヒアリングしたところ、施工数量が多かったこともあり、要件を満たす技術者を配置できなかったと聞いております。今後は、更なる要件緩和を検討するなど参加業者の確保に努めたいと考えております。
	本件は適正に処理された。	

3. 一般競争入札(建設コンサルタント業務等)

平成27年度 下田港防波堤沈下測量	1回目と2回目の入札において、開差が大きいが、その原因は何か。	本案件の応札者は、過去に下田港での業務実績がないこともあり、現場の海象条件に起因した調査延期に関して、積算以上の大幅な経費を見込んでおりました。調査日については、甲乙協議により決定する旨特記仕様書に記載し、できる限り手戻りが生じないように行うつつもりでしたが、その趣旨が伝わっていなかったことが要因です。今後は発注にあたり、より分かりやすい条件明示を行うよう工夫していきたいと考えます。
	技術評価点の配分に対して、約半分の点数となっているが、下限値の設定はあるか。下限値がある場合、それを下回った際は、何らかの対応を行うのか。	技術評価点の下限値は設定しておりません。ただし、競争参加資格の有無の判断において、同種業務実績及び成績、業務実施体制の妥当性等を総合的に勘案して、当該業務が履行可能であるか否かを確認しております。
	過去の応札状況について、説明いただきたい。	本業務は、平成23年度より発注していますが、23及び24年度が2者、25年度が3者、26年度は1者の応札でした。
	入札参加想定業者31者に対して、1者の応札とかなりの差があるが、どのように考えるか。	想定業者については、当局の求める実績を満たす者として31者を確認しましたが、入札説明書等を入手した者に確認したところ、他の港での実績はあるものの、下田港は遠隔地であり、現場条件に精通していないため参加を見送ったと聞いております。
	過去の応札状況を踏まえ、等級を拡大することについて検討はしなかったのか。	発注等級については、予定価格に基づき全国統一の基準により決定しますが、本案件はその基準に照らしてB等級となること、また、当局の求める要件を満たす業者が31者想定されることから、基準に則した発注としました。
	本件は適正に処理された。	

4. 簡易公募型プロポーザル(建設コンサルタント業務等)

平成27年度 強震計を活用した施設診断システム運用方策検討業務	本案件のような強震計を活用したシステムを構築する業務は過去に例はあるか。	当局が初めて構築したものであり、他の地方整備局も含め、同様のシステム構築を行った例は、過去にありません。
	想定応札者数が21者いるにもかかわらず、1者の応募であったことについて、どのように考えるか。	本案件の発注にあたっては、多くの参加業者を得るため、年度当初の公示および前年度の成果物の公表を行いました。結果的に1者の応募となりました。
	結果的に1者の応募となったことについて、他の取り組みを行う余地はあるか。	参加を見送った者へのヒアリングから、本案件で設定した公示から参加表明までの日数では、前年度の成果物の内容を十分に理解する時間が足りなかったと推察されます。よって、今後は、成果物の内容を十分に理解するため、公示から参加表明までの日数を標準より長くするなど工夫をしたいと思います。
	特定テーマの提案に対する評価について、20点満点ですべて12点となっているが、どのように評価したのか。	本案件の選定者から提出された提案は、すべての評価着目点について有効性は認められるが標準的な内容であると判断したことから標準点である12点の配点となりました。
	本件は適正に処理された。	

5. 一般競争入札(役務の提供等及び物品の製造等)

平成27年度 中山水道航路保全標識AIS設備設置業務	AIS設備の製造メーカーは1者か。	国内では1者ですが、海外メーカーは他に3者を確認しています。このほか、受注生産により対応可能な業者2者を確認しています。
	予定価格はどのように算出したのか。	予定価格については、製造メーカー以外に受注生産可能な2者を加えた3者から見積もりを徴収し、それらを基に算出しました。
	国内の製造メーカー、海外メーカーおよび受注生産の者も設置作業が可能であり、競争性が成り立つということか。	海外メーカーについては確認していませんが、少なくとも製造メーカーおよび受注生産の者は設置を行うことができるので、競争性は成り立つと考えています。
	本件は適正に処理された。	

6. その他

	なし
--	----